

令和6年度 妹背牛町総合教育会議録

1. 開 会 日 令和7年1月30日(木) 午後3時
2. 閉 会 日 令和7年1月30日(木) 午後4時
3. 場 所 妹背牛町役場庁議室
4. 事 件

1. 公設民営塾の開設について
2. その他意見交換

1. 出 席 者

町	長	田	中	一	典
教	育	長	廣	澤	勉
教	育	長	中	易	利
職	務	代	理	者	則
委	員	木	山	ひ	と
委	員	梶		哲	也
委	員	辻		五	月
事	務	局	企	画	振
			興	課	長
			鎌	田	秀
			田	秀	章
			教	育	課
			長	川	上
			善	樹	

会議の経過

発言者	発言内容
企画振興課長	<p>本日はお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。事務局を担当しております企画振興課の鎌田です。よろしくお願いたします。始めにお断りいたしますが、本会議につきましては議事録作成のため発言等を録音させていただきますことをご了承願いたします。</p> <p>それでは、只今から令和5年度妹背牛町総合教育会議を開会いたします。</p> <p>開会にあたりまして、田中町長よりご挨拶申し上げます。</p>
町長	<p>教育委員の皆様、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。</p> <p>改めまして、1月の最終日ですけれども、新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。さて、年末年始の寒気団による寒さと大雪、今はすっかり影をひそめまして、穏やかな春の訪れを期待しているところでございます。皆様には、様々な会合で新年交礼会が催されていると拝察いたしますが、新しい季節の変わり目でもございますので、お体には是非ともご自愛していただきながら、ご健勝で今年も妹背牛町の将来を担います児童生徒を見守りいただきたいと存じております。また、石川県能登地方への地震災害でお亡くなりになられました方々のご冥福を祈りますとともに、復興への厳しい道のりを歩む能登地方に支援のまなざしを送りたいと思っております。町からの義援金、それから町職員からの義援金が集まって、それぞれ送付の段取りに入っておりますけれども、2月2日には、中学校の生徒の方たちが独自で義援金を集められまして、町を通過して赤十字のほうに義援金を行いたいということで、2日に受け取りにいつてまいります。本当に学校も生徒もありがたいことだと思っております。それから、もちろんご存じのことと思いますが、北空知連合として妹背牛中学校野球部が全国大会の切符を手にすることが出来ました。北竜町の応援の垂れ幕に刺激を受けまして、妹背牛町でも応援の立て看板を制作して町民の応援の輪を広げたいと考えているところです。本日は、総合教育会議ということで、教育委員の皆様と町長部局の連携強化を図るためにも、その時々々のテーマを取り上げまして、意見交換をしながら教職員及び子どもたちの学習生活環境の見直しや向上などにつなげる機会と考えておりますので、よろしくお願いたします。</p>
企画振興課長	<p>ありがとうございました。ここからは、町長が議長となり進行いたしますので、よろしくお願いたします。</p>
町長	<p>それでは本日のテーマ「教職員の働き方改革」の1点目、校務支援システムの導入につきまして教育委員会より説明をお願いします。</p>
教育課長	<p>それでは、私のほうから座ったまま説明をさせていただきます。道教委が推奨しています業者の資料により、説明いたします。お手元の資料をご覧ください。まず、このシステムの概要ですが教職員の方々の校務を支援する機能をクラウドで提供するサービスとなります。特徴として3点あります。充実の機能、大きな効果、信頼の運用とサポートです。平成24年度に道立学校、市町村立学校の同一システムとして稼働したのですが、この時は高校システム向けに構築していたため、小中学校から業務実情に合わないなどの意見が寄せられました。その後、北海道教育委員会とともに内容を検討し、調査票などの統一や成績・保健機能の有無など複数のパッケージを用意するなどの試行錯誤を経て、平成27年度に小中学校版のモデル実践を開始しております。現在の道内自治体の導入状況ですが、107自治体680校です。北空知では、沼田町のみ導入済みです。「充実の機能」としては、子どもの良い点を気づいた職員が書きとめて、担任と共有することにより、通知表の所見記入の充実と時間短縮が図られる「いいとこみつけ」や、出勤・退勤時間をシステム内に登録し、在校時間や超過時間の帳票出力を行う「出勤簿機能」は勤務状況の見える化により「働き方改革」に活用が可能です。その他にも、連絡掲示板やスケジュール、施設予約など、学校に必要な機能が搭載されています。続いて「大きな効果」ですが、今までは通知表は1日頃の様子は手帳に書いてあるものを見てまとめないといけなかったものが、「いいとこみつけ」を参考に作成できますし、指導要録も通知表の所見をコピーして、さらに特別活動も追加コピーできます。また、多くの学校の利用により効果を発揮します。地域で同一システムを使用することで職員の負担軽減、多くの声を反映し、より使いやすく、各種機能の強化や追加、北海道用調査票にも対応しております。教職員の方々が異動するたびに、システムが変わると最初から覚えられないなどの課題も解決されます。次に「信頼の運用とサポート」です。主に万全なセキュリティです。教育委員会や学校等の業務にあわせてアクセス制限を行い、不要なアクセスを防ぎ、IDやパスワードを保護します。校長や教員などの教職員ごとに、きめ細かな権限設定を行い、他からの閲覧等を防止します。例えば「他学年の通知表は見られない」など、学校ごとに設定することができます。</p> <p>このように、校務支援システムが導入されることにより、これまでバラバラに行っていた事務処理が統一され、全ての情報を一元管理でき、たくさんのメリットが考えられます。繰り返しのようになってしまいますが、教職員の業務負担軽減、校務に係る時間短縮や業務効率の改善、情報発信や共有によって教職員の質を向上させたり、校務で扱うデータを一元管理して利用できることによって、作業負担やミスを軽減させたりという効果が見込まれます。</p> <p>以上のことから、働き方改革やICT環境の面からも、教職員の負担を軽減するとともに、子どもの育ちを教職員全体で見守るきめ細やかな指導の充実等を図ることを目的に、令和6年度に「校務支援システム」を導入する予定です。先週、町長査定が終わり令和6年度予算として計上されることになっております。先ほどの説明で、北空知管内の導入状況について触れましたが、近隣市町も令和6年度導入に向けて検討しているという情報も入ってきていますので、校務がスムーズに行えるシステムの構築に向けて、近隣市町で連携を図り進めていきたいと考えております。私からの説明は以上となります。</p>

会 議 の 経 過

発 言 者	発 言 内 容
町長	説明が終わりました。みなさんから、ご質問・ご意見あれば、お願いいたします。
委員	6年度からだ、4月からすぐに導入されるのですか？
教育課長	予算としてはそうなんです、5月頃に契約を締結して、その後データ登録や教職員へのシステム研修会などを行いますので、実際に運用できるのは9月頃かなと想定しています。
委員	初期導入費は、初年度のみ払えば後は払わなくていいのでしょうか？
教育課長	1回だけです。後は、毎月の利用料のみの支払いとなります。2年日以降は、導入費はかかりません。
委員	実際には、学校訪問で授業を見てもiPadが入った時点で、学校の先生方はそれ自体が負担になっています。何年か経てば、そういうことが当たり前になると思いますが、その時代がくるのが何年先なのかわからないけれども、その導入段階でかなり先生に負担になるのは、目に見えているので、本町の先生方は学校訪問の際に聞いた時には、特にアナログ世代が多いので、導入は先生方の負担にはもちろんなるけれども、教育委員会としても負担になることを覚悟して取り組まなければならないと思います。
教育課長	本町の場合は、先生方の年齢構成が決して若いとは言えませんので、そこは教育委員会としてもバックアップしていかなければならないと考えています。
教育長	年齢だけで一概にICTに弱いとは判断できないですけど、例えば中学校の教頭は前任地で校務支援システムのある学校から本町に来たので、そのあたりが導入にあたって先導してもらって、若い能力に長けた人に任せるのではなく、管理職が率先して行わないと普及しないのかなと思います。
委員	一番苦手としている人が前向きに取り組まないと、せっかくいいシステムを入れても、先に進まなければ何もならないと思います。
教育長	中学校の教頭が、「前任校でみんなが使いこなしているシステムだなと感じるまで1年かかった」と言っていました。準備期間を考えると本格的な運用まで、ある程度の時間はかかります。
委員	基本的に、全教職員が対象なのですか？
教育課長	そうです。苦手な方にも、使用方法を教えながら使っていただくことになります。
委員	高校あたりは、実際に朝の時間の出欠というのは全てメールで行っていますので、学校業務としては朝の時間帯というのは大分変わってきています。いちいち担任を呼んだりとか、その部分が削減されるので時間の短縮にはなっています。今はスマホで行っています。ほとんどの保護者がラインアプリに入っていますので、それに入っていない人は直接学校に電話をしています。
委員	このシステムの場合、先生方は出欠の管理はどのようにされるのですか？

会議の経過

発言者	発言内容
教育課長	先ほどの話にもありましたが、同じようにスマホの指定したアプリを使って欠席の連絡は保護者のスマホから簡単なタップ操作で完了しますし、先生は手元でその連絡を確認することができます。お互いご自身のタイミングで連絡・確認ができるので、従来の電話連絡と比べて、保護者にとっても、先生にとっても、忙しい朝の時間を有効活用することができ、ちょっとしたゆとりにつながります。また、校内では電話連絡を受け取って、担任に伝えるといった伝達業務も省略され、情報を必要な方全員にリアルタイムに共有することで、家庭や子どもへのより丁寧なフォローが確立できます。
教育長	セキュリティのやり方があるのかどうなのかわかりませんが、個人のスマホでは指定したアプリで行わないと、個人情報漏洩する恐れもありますので、そこは確認しながら進めていきます。
委員	ちなみに先生方は、パソコンは1人1台持っているんですか？
教育課長	パソコンは1人1台持っています。
委員	データセンターが、24時間365日有人監視となっていますが、これは会社のほうで見ているということですか？
教育課長	どのような体制で行っているかまでは確認していませんが、交代制で行っていると思います。
企画振興課長	データセンターのある場所は公開されていません。どこにあるかはわかりません。職員が常駐していて、中には誰も入れないようになっています。会社とデータセンターは別の場所にあります。
町長	学校には導入するという説明はしているのですか？
教育課長	説明しております。
教育長	元々、学校の先生方で構成している教育推進協議会の中で北空知だけ普及が進んでいないので、何年も前から学校から導入の要望はあがっていました。今回、働き方改革も相まって、このタイミングの導入ということになりました。
町長	近隣の市町もシステム導入に向けて、動き始めるんでしょうか？
教育課長	次長課長会議の中では、どの市町も令和6年度に向けて導入するという話になっています。
町長	システムを覚えるのに時間がかかるとお思いますので、1年間は長い目で見ながら有効性を実証していけたらと思います。
町長	それでは、2点目に移ってよろしいでしょうか？部活動の地域移行について、教育委員会より説明をお願いします。

会 議 の 経 過

発 言 者	発 言 内 容
教育課長	<p>次に2点目の「部活動の地域移行」についてですが、現在北空知圏振興協議会教育部会にて、沼田町が中心となり令和4年5月から始まり、これまで6回1市5町で協議をしております。</p> <p>この部活動地域移行は、教員の負担軽減や部活の種目維持などを目的に、運動部、文化部とともに国が2023年度から本格的に取り組むもので、①外部指導員を招く②市町村や民間団体が運営するクラブチームなどに活動全体を委託する③教員が民間団体の指導者を兼業し、報酬を得て引き続き指導することなどを想定しています。まずは、休日の部活動から段階的に地域移行し、将来的には平日への拡大も視野に入れています。文部科学省は当初、休日の部活動について、25年度末までの移行達成を目指していましたが、自治体などから3年間で地域移行は困難との指摘があったため、一昨年12月に「地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す」と方針転換したところであります。</p> <p>それでは、市町村が運営する北海道教育委員会が昨年12月に実施した「部活動の地域移行に係る市町村の取組状況調査結果の概要」により説明いたします。お手元の資料をご覧ください。調査時期は令和5年12月1日から12月27日までで、調査基準日は令和5年12月1日です。調査項目は、部活動の地域移行に向けた取組状況として11項目、その他として3項目あります。</p> <p>～以降は資料に沿って、項目ごとに妹背牛町を含め回答結果の説明～</p>
教育課長	<p>次に北空知圏振興協議会教育部会の、これまでの経過と今後の予定について説明いたします。資料はA4両面1枚になります。</p> <p>会議の開催状況ですが、空知教育局の会議を含めると8回行っております。昨年の12月の会議では、部活動の現況調査、部活動地域移行に係るアンケート、講演会の開催について協議をしております。次に今後の予定です。別紙として講演会のチラシを配布していますが、日時は、2月9日(金)13時30分から開催します。場所は、沼田町生涯学習センターゆめっくるです。内容については、NPO法人おにスポ理事長の磯田大治さんの講演「これからの部活動の在り方」、その後はグループワークを行う予定となっております。続いて、アンケート調査の実施ですが、新年度に入ってから行います。対象は、小学校3年生から中学校3年生、保護者、教職員となっております。最後に、現在の妹背牛中学校の部活動の現状です。野球部が3名。秩父別町、北竜町、沼田町、雨竜町との連合チームです。野球部は3月末から始まります全国大会に、北空知連合として出場いたします。男子バスケットボール部が5名。秩父別町と沼田町の合同チームです。女子バスケットボール部が3名。滝川開西中学校と合同チームです。女子バレーボール部が3名。北竜町と深川中学校との合同チームです。吹奏楽部が3名、吹奏楽部のみ単独での活動となっています。この部活動の地域移行は、なかなかスピーディーにはいきませんが、今後も北空知圏振興協議会の中で協議し、情報を共有しながら前進していかなければならないと考えています。説明については、以上となります。</p>
町長	<p>それでは、教育委員会からの説明が終わりました。みなさんから、いろいろご質問やご意見があると思いますので、どうぞ発言をお願いします。</p>
委員	<p>部活動の合同チームの練習場所は、お互いの学校を行き来しているのですか？</p>
教育課長	<p>野球部の場合は、照明設備のある北竜町や沼田町を主な練習会場にしています。</p>
委員	<p>移動するときの交通手段はどのようになっていますか？</p>
教育課長	<p>普段の練習は保護者の送迎が主ですが、土日や祝日は町のバスで送迎をしております。この交通手段も地域移行の大きな課題として、あがってきています。バスのない自治体などは、保護者が送迎できない場合、タクシーを利用するケースも出てくると思います。</p>

会 議 の 経 過

発 言 者	発 言 内 容
委員	<p>以前、新聞に載っていましたが、その町でもコロナ禍もあって需要が少なくなった部分をそういう移動手段としてタクシー会社をお願いして、その負担を保護者が持つという情報もありましたが、それはその地域の特性なので、それが本町にあてはまるかはわからないところです。私は野球に関わっていて、スポーツ報知の新聞に記事が出たときに、取材しに来た記者の方が、野球部に関しては5町連合チームなので、選手が14名、それに対して指導者が13名というような部分で、指導者がほとんど選手について指導できる部分に関しては、いろんな指導者の考えがあって、指導者自身も学習の場が広まったという意見も出てますし、指導者が多い分だけ日割りのような形で、働き方改革ではないですけども、ずっと選手についていなくてもいい時間を持てるというか、そういう部分ではいいかなと思っているというような記事が、監督から取材の中で出てきた言葉です。子どもたちにすれば、いろんな人の考え方や性格というのが、自分達の町の中では感じられなかったことが、いろんな個性を知ることによって楽しいというようなことが、記事の中には出ていました。今言ったように、移動手段が非常にネックになっているので、父母会のほうで順番に子どもを乗せて連れて行くのも、今はやっていることだけれども、万が一何かがあったときに誰が責任を取るのかという部分もネックになっています。あくまでも自分の子どもは自分で送迎する、後は保護者同士の信頼関係しかありません。妹背牛の場合はありがたいことに、バスを出していただいて活動させてもらっているの、他の町から比べるとポイントの高い部分だと思います。</p>
町長	<p>バスを出しているのは、野球部だけですか？</p>
教育課長	<p>いいえ。申請があれば、教育委員会で受付をして、委託会社に連絡を入れています。全ての部活動で練習試合や大会の際に出しています。</p>
委員	<p>ずっと前を辿れば、野球少年団の全道大会の時にバスを出していただいて、それには少年団に関わっている他の町の子も乗っていきましたので、そういう部分では助かっていますけれども、他の町に比べれば条例で他町村の子どもは乗せられないという条例もありますので、他の町は自分の町の子しか乗せられない状況になっています。</p>
委員	<p>そういうところから変えていかないと、もっと1市5町で協議してもらわないと、この地域移行は先に進んでいきません。指導者をつけるという話になってきても、誰に頼むとかそれに見合う報酬とか全てが絡んでくるので、どんどん詰めていかないと、あと2年くらいで実行していきたいという話ですから、それをもっとスピーディーに行えるように話し合いの回数を多くして、行わないとこれは進んでいかないと。思います。</p>
委員	<p>岩見沢の小学校の野球少年団が一つになりました。いっぺんにレベルが上がり、即全道にいけるようになっていきます。一つになったことで、上の大会に出られることにはなりましたが、本町のように近いから交流が出来るけれども、私が今回全国大会に行くにあたって、各町長さんと教育長さん同席のもと、挨拶に伺ったのですが、そういう中で行政の温度差を感じました。どこまで支援をするのかという部分が、やはり見方が違うと言いますか、本町でもどこでも子育て支援はありますが、中体連大会になると全額支給で、助成金が出るんですけども、他の冠大会、今回は文部科学大臣杯にはなっているのですが、そういう路線からずれているのか、ただ参加校からいけば全国から56校のチームが集まってくるわけですから、甲子園大会よりも参加校が多い大会なんですけれども、子ども達の練習してきた評価としてあげられる部分というのは、そういうところに支援を多くしていただければ、これは子育てではないですが、家庭の負担が多いと参加できないというケースも考えられますので、それを統一できるように、もっと話し合う機会を増やして情報交換していただければと思います。</p>
町長	<p>この案件を扱うところは、北空知圏協議会ということで、担当者はそれぞれの部局になるんですけども、トップになるのは市長さん、町長さんなので、そこの温度差をまずは解消していくという意味では、少しづつ力を出していきたいと思っております。今の話を聞いて良かったです。子育て支援の次の段階ということで、力を合わせようという雰囲気を作りたいと考えています。</p>
町長	<p>それでは、2点目の部活動の地域移行について皆さんからそれぞれご意見いただいたところですが、他にはないでしょうか？今日のところはよろしいでしょうか？なければ、次のその他の意見交換に入らせていただきます。せつかくの機会ですので、今日のテーマ以外で何かおたずねしたいことがあれば発言をお願いします。</p>

会 議 の 経 過

発 言 者	発 言 内 容
委員	去年この場で学校建設延期の話があったのですが、それに向けて基金をつくってやっていきますという話は聞いていたんですけども、その後の方向性みたいなものがあれば教えてください。
企画振興課長	基金条例は設置しております、昨年6月に2千万円の基金を積んでおります。今後については、財政状況を見ながら、積んでいくことになります。
町長	可能な財源の中で積立をしていきますので、そこはご理解いただければと思います。あとは3月末に新校舎を建てるべきなのか、旧校舎を増改築していくのかの結果はこれから出ますので、それを受けて財政としてどこに向かっていくのか検討していきます。その情報は皆さんにもお届けいたします。
委員	是非とも、そういう部分で財政的なものがあるのであれば、その財政の中で担当して相談する人たちの中にもうちょっと地元の人も入れて、こういうように直せばこういうものができるというような、日頃そういういろんな分野で改修に携わっている人たちの意見も聞いて、専門家ばかりでいくとガチな感じのものに仕上がらないので、結局何かがあったときには地元の人たちが対応できる、すぐなおせるシステムにしていけないと、札幌から呼ばないと何も出来ないとか、そういうような形にならないように進めていただければと思います。
委員	部活動の地域移行の件だったのですが、他の地域と合同チームで活動しているのであれば、既に地域移行しているのではないのでしょうか？
教育課長	現在の合同チームの指導者は学校の先生です。地域の方が指導者になっているわけではありませんので、合同チームではありますが、地域移行にはなっていません。地域の方に指導者になってもらって、学校の先生の負担を減らすのが、この地域移行の大きな狙いになっています。
町長	岩見沢は地域移行の形で、民間の方が教えてるのですか？
委員	そこはどこかの学校の指導者が教えています。完全な地域移行にはなっていません。それを、完全に移行するというのは、かなり難しいです。どこの地域を練習会場の拠点にするかというのも課題になっています。
委員	国は2年で完全移行しなさいと言っていますが、難しいと思います。私はスポーツ協会の会長をやっていますので、先日、沼田町で開催された北空知の地域移行の講演会に出席してきましたが、意見交換の中では多くの課題があると出席された皆さんが言っていました。
教育課長	全道でも先行して、この地域移行を行っているところもありますけど、簡単には進んでいないのが現状だと感じています。指導者の確保など、課題はたくさんあります。
委員	簡単に指導者になれるのかと言ったら、それはなれませんので、日体協の研修会に参加して、そのランクの人がいないと大会には出られませんよとか、野球に関しても、そういう指導者講習会を受けた人がベンチに入っていないと、大会参加はできませんよとか条件がいろいろあります。クラブチームに移行するのを、義務教育の中でやっていくのは、大変なことだと思います。クラブチームでいけば、サッカーは楽しいサッカーではなくて全国レベルのJリーグの下部組織や、野球で言えば何とかジュニアとか、そこに入るためにはセレクションを受けないと入れないようなことになっています。

会 議 の 経 過

発 言 者	発 言 内 容
町長	<p>学校の働き方改革が大きく作用しているけれども、先生からある意味、部活を取り上げるような形にもなります。先生はフリーになって、スポーツには学校は基本的に携わらないで、健康のためには行うけれども、スポーツというものは民間に移行したいというのがあると思います。合同チームになっても先生が指導してたら、地域移行という姿には基本的にはなりません。</p>
教育課長	<p>学校の先生の中には「教えたい」という気持ちの先生も3割から4割います。兼職兼業を行うことは可能です。</p>
委員	<p>部活動は学校の先生全員が、どこかの部活動に割り当てられています。学校にある部の数だけ、先生の割り振りをしています。先生の中には、自身が経験したことのない部活動を担当させられることもあります。子ども達は、そんな経験のない人に指導されても強くも上手にもなれません。そこがネックで、今度は子ども達が指導者を評価してしまいます。簡単に地域移行というけれども、こういう田舎ではライセンスの資格を持った人が少ないので、やりたくてもやれないし時間もありません。研修を受けるのに3日間にかかるようです。野球は独立リーグができてきて、その還元として独立リーグの下にクラブチームを作って、独立リーグの選手が教えるという形を取り始めているところもあります。サッカーはJリーグが出来たときに、ピラミッド型を作ってスタートしたのでやりやすいのかなと思います。</p>
町長	<p>今いろいろと意見が出て、矛盾もありながら進んでいかなければならないテーマだと思っています。今回、いろいろとご意見いただいたことを私たちのほうでも参酌しながら、それぞれ意見を言える場所がありますので、その中で議論を深めていながら、この地域の子も達がいろんな体験が出来るように導いていく努力をしたいと思います。本日は長時間にわたり、ありがとうございました。また機会がありましたら、次の機会にその進展状況あるいは学校関係のことも情報として流していきたいと思います。本日はありがとうございました。</p>